

PRTRデータ集計結果（平成29（2017）年度）

栃木県環境森林部環境保全課
令和2（2020）年3月

(1) 背景

事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止することを目的として、平成11（1999）年7月に「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（化学物質排出把握管理促進法）が公布された。

本法では、政令で定める462種類の化学物質（第一種指定化学物質）を取扱い、かつ、政令で定める届出要件（業種、従業員数、取扱量等）を満たす事業者は、1年間にどのような物質をどれだけ環境中へ排出したか、あるいは廃棄物としてどれだけ移動したかを、県を経由し国へ報告する、PRTR（化学物質排出移動量届出）制度が定められている。

国はそれを集計し、家庭や農地、自動車などから排出される化学物質の量を推計し、合わせて公表することとなっている。

この制度により、事業者が、自ら排出している化学物質の量を把握することによって、化学物質排出量の削減への自主的な取組が促進されることが期待される。

また、PRTR制度で得られたデータを利用して、県民、事業者、行政が、化学物質の排出の現状や対策の内容等について、話し合いながら協力して化学物質対策を進めていくことが期待されている。

(2) PRTR制度による排出量の把握

ア 届出件数

「化学物質排出把握管理促進法」に基づく平成29（2017）年度の第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出事業所数は、表1のとおりであり、本県は全国の約2.1%を占めている。

表1 届出事業所数

年度	栃木県	全国	割合
29（2017）	731	34,253	2.1%
28（2016）	729	34,795	2.1%
27（2015）	737	35,274	2.1%

イ 環境への排出量

平成29（2017）年度の県内の届出排出量と推計排出量を合わせた総排出量は、8,840t（平成29（2016）年度は9,003t）である。届出排出量は全体の49%（同49%）を占め、それ以外から排出される推計排出量は51%（同51%）であった（図1）。

届出排出量の内訳は、大気への排出99%（同98%）、公共用水域への排出1%（同2%）であった。

発生源別の内訳をみると、事業所（製造、販売、サービス業、農業等）からの排出割合が72%（同72%）、家庭から10%（同10%）、自動車等から18%（同18%）であった。

なお、これらの数値については、全ての事業者を対象としていないことや、推計により算出したものも含まれていることなどから、その精度に一定の限界があることに留意する必要がある。

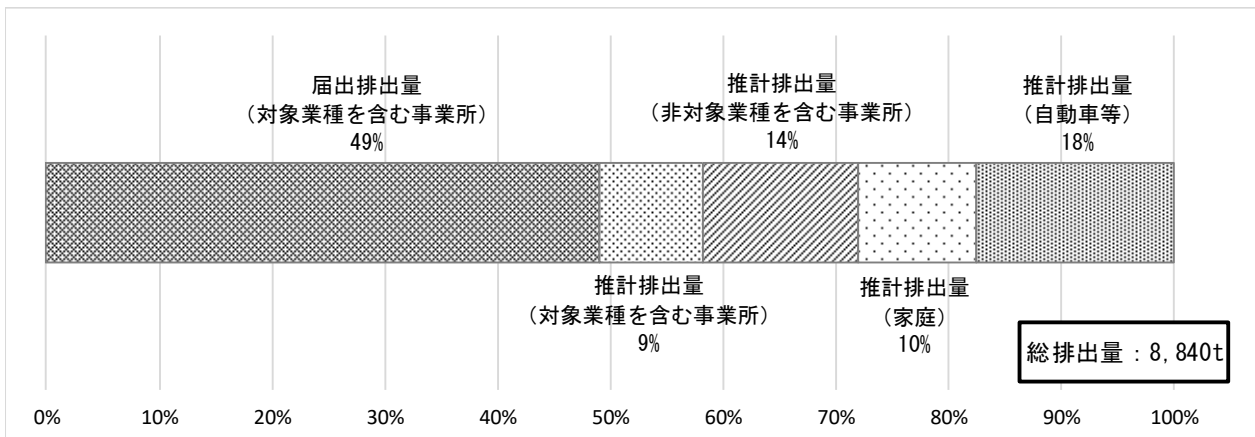


図1 発生源別割合（届出・推計）（平成29（2017）年度）

(7) 届出排出量

a 大気への排出量

県内の事業所から届出のあった大気への排出量4,274t(平成28(2016)年度は4,312t)の上位5物質を図2に示す。排出量の多い物質の主な用途は次のとおりである。

- (a)トルエン：塗料やインキ等の溶剤、ガソリン成分、他の化学物質の合成原料
- (b)キシレン：塗料や農薬等の溶剤、ガソリン・灯油成分、他の化学物質の合成原料
- (c)ジクロロメタン：洗浄剤(金属脱脂)、インキ成分、ペイント剥離剤、溶剤等

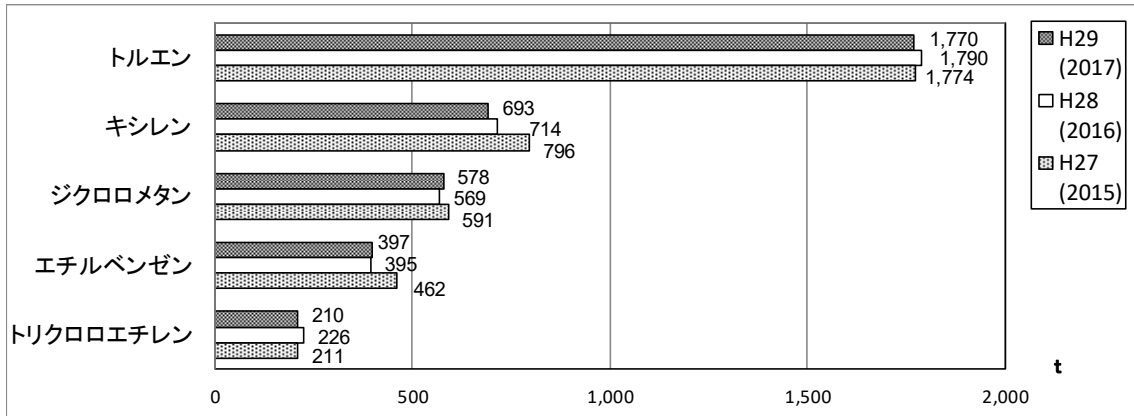


図2 大気への排出量(届出)(平成27(2015)~平成29(2017)年度推移)

b 公共用水域への排出量

県内の事業所から届出のあった公共用水域への排出量62t(平成28(2016)年度は80t)の上位5物質を図3に示す。排出量の多い物質の主な用途は、次のとおりである。

- (a)ほう素化合物：ガラス繊維用添加剤、消毒剤等
- (b)ふっ化水素及びその水溶性塩：金属・ガラスの表面処理剤、合成原料等
- (c)亜鉛の水溶性化合物：金属表面処理、乾電池、殺菌剤

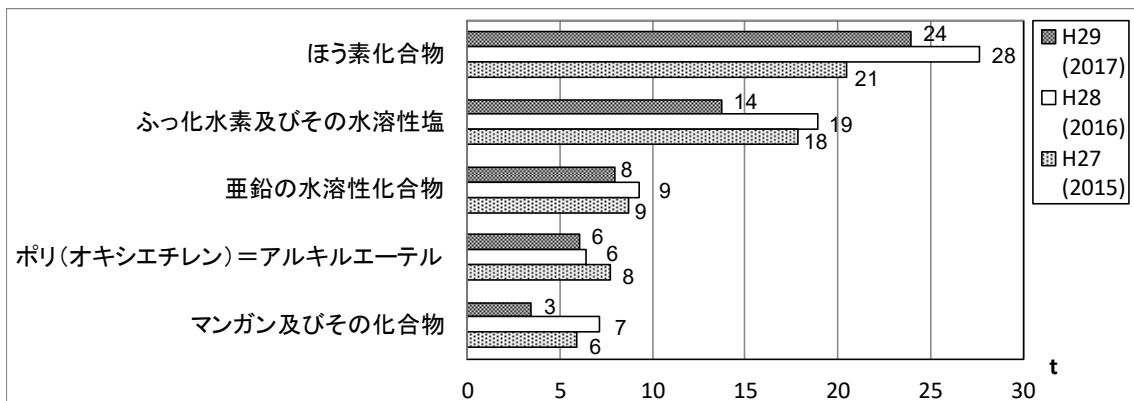


図3 公共用水域への排出量(届出)(平成27(2015)~平成29(2017)年度推移)

(イ) 推計量

a 届出の必要のなかった事業所からの推計排出量

届出要件(業種、従業員数、取扱量)を満たしていないために、届出をする必要のなかった事業所からの推計排出量2,026t(平成28(2016)年度は2,055t)の上位5物質を図4に示す。

排出量の多い物質の主な用途は、次のとおりである。

- (a)トルエン：塗料やインキ等の溶剤、ガソリン成分、他の化学物質の合成原料
- (b)キシレン：塗料や農薬等の溶剤、ガソリン・灯油成分、他の化学物質の合成原料
- (c)エチルベンゼン：合成原料、溶剤

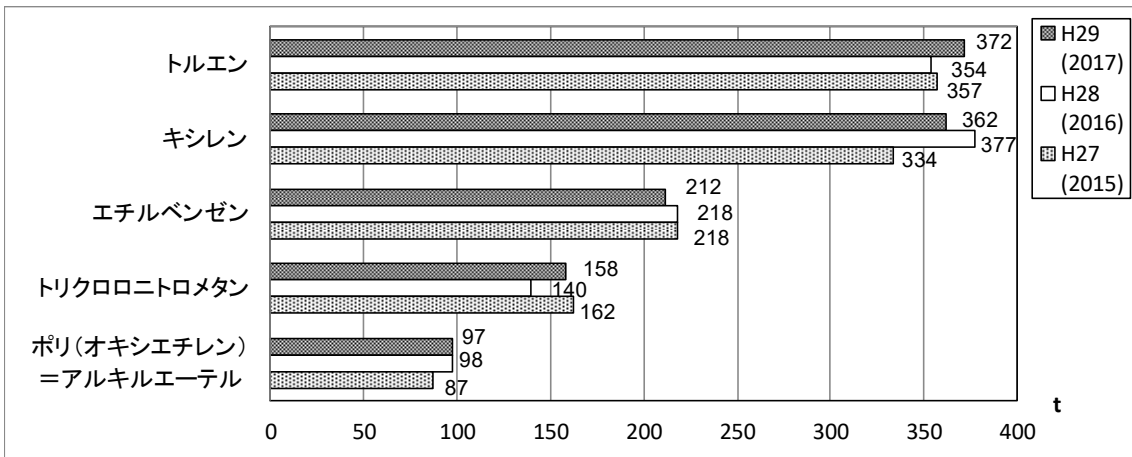


図4 届出の必要のなかった事業所からの推計排出量（推計）（平成27（2015）～平成29（2017）年度推移）

b 家庭からの推計排出量

県内の家庭からの推計排出量929t（平成28（2016）年度は920t）の多い上位5物質を図5に示す。排出のあった物質の主な用途は、次のとおりである。

- (a) ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル：界面活性剤、可溶化剤、分散剤
- (b) 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩：界面活性剤
- (c) ジクロロベンゼン：合成原料、溶剤、洗浄剤等

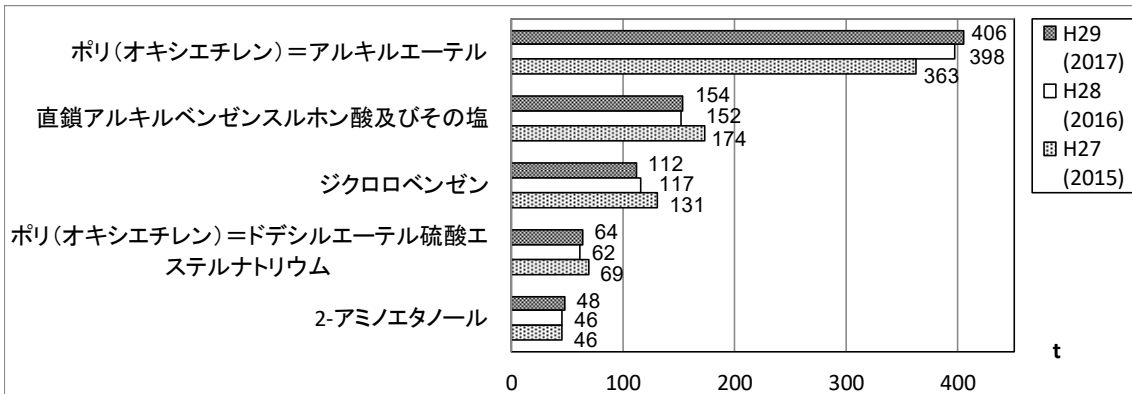


図5 家庭からの推計排出量（推計）（平成27（2015）～平成29（2017）年度推移）

c 自動車等からの推計排出量

県内の自動車等（自動車・二輪車・特殊自動車等）からの排ガスに含まれる推計排出量1,549t（平成28（2016）年度は1,617t）の多い上位5物質を図6に示す。

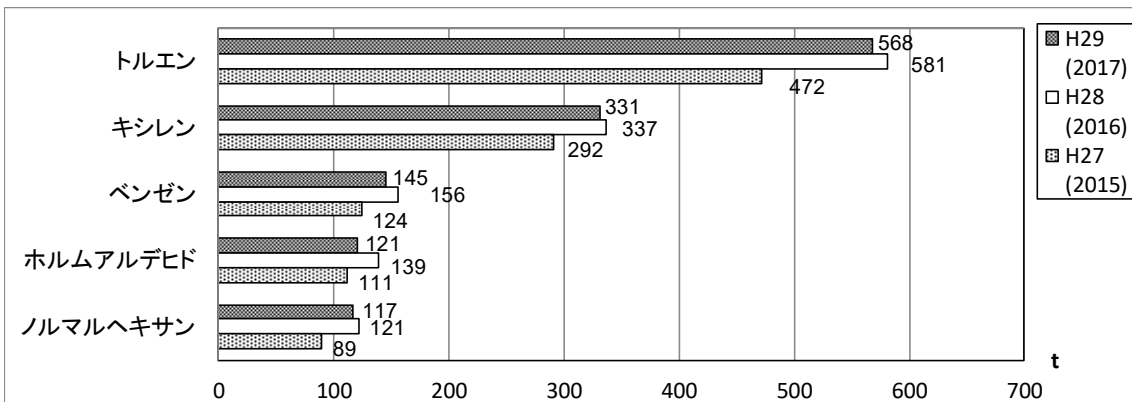


図6 自動車等からの推計排出量（推計）（平成27（2015）～平成29（2017）年度推移）

(3) 市町別排出量

単位：kg(カドイキシソ類はmg-TEQ)

	市町名	届出数 (件)	排出量				排出量 合計	排出量上位3物質					
			大気	水域	土壌	埋立		物質名	排出量	物質名	排出量	物質名	排出量
1	宇都宮市	146	384,356	9,155	0	0	393,511	トルエン	164,975	ノルマルーヘキサン	78,725	キシレン	73,901
2	足利市	54	795,655	3,563	0	0	799,218	トルエン	206,537	ジクロロメタン	168,900	トリクロロエチレン	148,010
3	栃木市	53	189,054	2,751	0	0	191,804	トリクロロエチレン	62,000	トルエン	43,763	キシレン	33,503
4	佐野市	40	554,600	7,370	0	0	561,970	トルエン	470,755	キシレン	29,723	ジクロロメタン	29,700
5	鹿沼市	49	167,104	268	0	0	167,371	ジクロロメタン	69,300	キシレン	34,956	トルエン	27,661
6	日光市	28	52,082	10,767	0	0	62,849	トルエン	49,493	ほう素化合物	6,672	ふっ化水素及びその水溶性塩	2,455
7	小山市	57	357,023	3,578	0	0	360,601	キシレン	137,700	エチルベンゼン	89,623	トルエン	78,054
8	真岡市	44	251,292	10,175	0	0	261,467	トルエン	103,197	キシレン	77,638	エチルベンゼン	30,792
9	大田原市	37	117,168	2,598	0	0	119,765	トルエン	33,417	スチレン	24,077	キシレン	22,684
10	矢板市	12	40,063	225	0	0	40,288	ジクロロメタン	36,000	トルエン	2,001	キシレン	1,051
11	那須塩原市	45	221,687	3,998	0	0	225,686	ジクロロメタン	187,000	ノルマルーヘキサン	12,443	キシレン	6,107
12	さくら市	24	36,690	742	0	0	37,432	トルエン	21,190	ジクロロメタン	8,002	1-ブロモプロパン	4,900
13	那須烏山市	14	201,461	75	0	0	201,536	トルエン	197,866	1-ブロモプロパン	3,400	ノルマルーヘキサン	127
14	下野市	16	17,208	1	5	0	17,214	トルエン	8,593	キシレン	4,005	エチルベンゼン	3,065
15	上三川町	14	431,764	4,454	0	0	436,218	キシレン	157,557	エチルベンゼン	122,635	トルエン	92,071
16	益子町	6	212	850	0	0	1,062	亜鉛の水溶性化合物	850	ノルマルーヘキサン	135	トルエン	54
17	茂木町	5	174	29	0	0	203	ノルマルーヘキサン	111	トルエン	45	ほう素化合物	29
18	市貝町	5	2,186	1	0	0	2,187	トルエン	1,100	ノルマルーヘキサン	1,000	メチルナフタレン	86
19	芳賀町	12	159,705	0	0	0	159,705	トルエン	64,477	ジクロロメタン	38,300	キシレン	24,957
20	壬生町	14	194,649	44	0	0	194,693	トルエン	191,688	HCFC-225	1,300	エチレンオキシド	500
21	野木町	18	10,317	665	0	0	10,982	ジクロロメタン	5,500	トルエン	2,923	ノルマルードデシルアルコール	1,100
22	塩谷町	6	17,124	28	0	0	17,152	ジクロロメタン	15,000	スチレン	2,100	亜鉛の水溶性化合物	28
23	高根沢町	10	6,805	215	0	0	7,020	トルエン	2,909	1-ブロモプロパン	2,300	キシレン	917
24	那須町	12	10,384	8	0	0	10,392	スチレン	9,700	ノルマルーヘキサン	359	トルエン	190
25	那珂川町	10	55,063	215	0	0	55,277	HCFC-225	47,000	トルエン	5,121	ジクロロメタン	2,800
合計		731	4,273,824	61,773	5	0	4,335,602						

※四捨五入により端数処理しているため、合計値等の計算結果にずれが生じている場合があります。

※この表は、国が平成31（2019）年3月に公表した排出量の情報を元に作成しています。